

序文

青 山 忠 正

本書は佛教大学総合研究所共同研究班として、一九九九年四月から二〇〇二年三月まで、三年度にわたって活動した、「近代国家と民衆統合の研究―祭祀・儀礼・文化―」（主任青山忠正）の成果をまとめた報告論文集である。その研究目的及び研究組織は次のとおりであり、あわせて期間中の具体的活動の記録として、月例研究会での報告タイトル・報告者一覧を以下に掲げ、序文にかえたい。

一 研究目的

歴史的段階としての近代の特質の一つは、それ以前においては、基本的に生産共同体としての村を基盤として形作られていた社会集団が、領域的な利益共同体としての国家のレベルにまで拡大され、それまでの民衆が「国民」として国家に統合され

るところにある。その統合にあたって、機軸的な要素を担うものが、生産共同体レベルから国家レベルへと拡大しつつ展開される祭祀や儀礼であり、さらに包括的概念としての文化である。

これまで近代についての研究は、歴史学の分野においては、政治史あるいは経済史が中心であり、右のような視点に立つ民衆統合の内容にまで立ち入ることは少なかった。また、民俗学・文化人類学・社会学など関連分野では、それぞれ固有の視点に立つ研究が進められながらも、それらが相互に交流して近代の全体像を描き出そうとする試みは、まだほとんど進展していない状況にある。

本研究は、このような関心を踏まえ、歴史学・民俗学・文化人類学・社会学など関連諸分野を総合した視点から、近代国家と民衆統合の諸相について検討することを目的としたものである。

二 研究組織

(研究員勤務先・職階は現時点。研究協力者は研究班当時)

青山忠正 (研究班主任・総合研究所教授・日本史学)

岡田浩樹 (嘱託研究員・神戸大学国際文化学部助教授・文化人類学)

類学)

長 志珠絵 (嘱託研究員・神戸市外国語大学助教授・日本史学)

岸本 覚 (嘱託研究員・鳥取大学地域学部助教授・日本史学)

高木博志 (嘱託研究員・京都大学人文科学研究所助教授・日本史学)

史学)

橋本 章 (嘱託研究員・長浜城歴史博物館学芸員・民俗学)

原田敬一 (嘱託研究員・佛敎大学文学部教授・日本史学)

八木 透 (嘱託研究員・佛敎大学文学部教授・民俗学)

野崎敏郎 (嘱託研究員・佛敎大学社会学部教授・社会学)

政岡伸洋 (嘱託研究員・東北学院大学文学部助教授・民俗学)

田 星姫 (研究協力者・佛敎大学非常勤講師・アジア文化論)

山本真理 (研究協力者・佛敎大学史学科資料室員・日本史学)

三 研究活動

研究活動は月例研究会での各班員による研究報告と、それを

題材とする討論を中心として進められた。その間には、各自がそれぞれの目的にしたがって、個人あるいはグループで史料調査・現地調査などを行った。それらの活動を通じて、課題に対する全員の共通認識を深めるとともに、それを班員各自がそれぞれの研究に反映させることをめざした。

ただし、最終的に本書に収録した各論文は、あくまでも班員個人の関心と見解に基づいて執筆されたものであり、研究班としての統一見解を示しているわけではないことをお断りしておく。また、月例研究会では、テーマの流れに応じて、随時に外部からゲスト・スピーカーを招き、新たな刺激を得るように努めた。以下の一覽で報告者名に付された※印は、それらのゲストを示し、そのうち二氏(南根祐・金子毅)には、論文をも寄稿していただくことができた。謝意とともに記しておきたい。

一九九九年度

第一回(四月二十六日)「明治維新の史学史」 青山忠正

第二回(五月三十一日)「神功皇后イメージの変遷」

長 志珠絵

第三回(六月二十八日)「町村合併の促進と郷の祭り―祭祀圏

の近代化についての試論―」 橋本 章

第四回(七月二十六日)「分節化と構造化―韓国仏敎について

の文化人類学的一試論——岡田浩樹

第五回（八月二十六日～二十九日）中華人民共和国旧「満州」地域現地調査及び解説報告

『満州』・『満州国』と都市建設

原田敬一

第六回（九月二十七日）「カール・ラートゲンとマックス・ヴェーバー——明治日本の目撃者と理解者——」

野崎敏郎

第七回（十月十八日）「植民地神社の祭神の系譜——札幌神社・台湾神社・朝鮮神宮——」

高木博志

第八回（十一月二十九日）「名前と家族の民俗学——『祖名継承』を題材として——」

八木 透

第九回（十二月十三日）「幕末萩藩の軍事改革——『御家兵法』と『異船防禦』——」

岸本 覚

第十回（二〇〇〇年二月二十一日）「被差別部落の民俗が語るもの」

政岡伸洋

二〇〇〇年度

第十一回（四月二十四日）「通商条約調印問題と天皇」

青山忠正

第十二回（五月二十二日）「民俗事例の民主化——近江湖北地方

のオコナイ行事から——橋本章

第十三回（六月二十六日）「日本人の商業道徳と黄禍論——日本資本主義論争への忘れられた前哨——」

野崎敏郎

第十四回（七月二十四日）「満州国の宗廟——建国神廟と建国忠

霊廟の実態——」

※下鴨神社権禰宜・京都女子大学講師 嵯峨井 健
第十五回（八月二十一日～二十四日）中華民国（台湾）台北市

の国家祭祀施設等現地調査

第十六回（九月二十五日）「美術と国家——近代日本の『美術』『美

術史』『美術史学』——」

※東京芸術大学助教授 佐藤道信

第十七回（十月三十日）「大英帝国の戦争——博物館・墓地・追悼碑——」

原田敬一

第十八回（十一月二十七日）「屈折した近代化——韓国仏教におけるポストコロニアル状況の考察——」

岡田浩樹

第十九回（十二月十八日）『檀君』ユートピアの行方——崔南善を中心——」

※韓国翰林大学校日本語学科副教授 南 根祐

第二十回（二〇〇一年三月十九日）「継体天皇陵の比定と『任

那日本府』の考古学的考察」

※佛敎大学文学部助教授 門田誠一

二〇〇一年度

第二十一回（四月二十三日）「御物・文化財・世界遺産―文化

財の近代―」

高木博志

第二十二回（五月二十一日）「家と家を繋ぐもの―地分け・同族・

祭祀―」

八木 透

第二十三回（七月十五日）「旧南王子村における民俗の特質を

考える―人権資料室民俗展示リニューア

ルとのかかわりの中で―」 政岡伸洋

第二十四回（七月二十三日）「近世後期大名家の神格化―毛利

家を事例として―」

岸本 覚

第二十五回（十月二十六日）「カール・ラートゲンと阪谷芳郎」

野崎敏郎

第二十六回（十一月二十六日）『台湾の総鎮守』官幣大社台湾

神社についての基礎的研究―御祭神とし

ての能久親王―」

※國學院大學日本文化研究所共同研究員 菅 浩二

第二十七回（十二月十七日）「英照皇太后論―国家儀礼のモデ

ル―」

長 志珠絵

第二十八回（二〇〇二年三月二十五日）『産業戦士』の誕生―

もう一つの近代を生きた『職工』たち―」

※東京基督教大学講師 金子 毅

以上のほか、二〇〇二年二月十四日～十七日には、「韓国における国家的慰霊施設の現地調査」をグループで行った（研究班員の参加者は、原田を責任者とし、長・岸本・高木・山本）。その成果については、本書所収の原田論文を参照されたい。

また第十五回研究会（二〇〇〇年八月二十一日～二十四日）での、中華民国（台湾）台北市における国家祭祀施設等現地調査にあたっては、故宮博物院副院長石守謙先生・中央研究院近代史研究所の張啓雄博士・台北市政府教育局の楊碧雲博士から、それぞれご教示あるいはご高配を賜った。この場を借りて、厚くお礼申し上げる次第である。